

NPO 法人 WeD 活動指標作成事業

－ 第 1 回活動効果測定調査について－

NPO 法人 WeD

協力：慶應義塾大学飯盛義徳研究室 唐津市元気プロジェクト

WeD 活動指標作成事業について

佐賀県唐津市は市内に大学のキャンパスがなく、若者の多くが高校卒業後に進学・就職のため市外に転出し、地元唐津との関わりが薄くなることを課題として抱えている。そうした状況の中、NPO 法人 WeD（以下 WeD）は、高校生の期間に地域や大人と関わることによってキャリア観や地域への愛着を育てるため、居場所づくりや様々な機会提供のプログラムを行っている。本事業はそうした地域における活動効果を測定する指標を作成することによって活動の改善に役立てることを目的としている。

第 1 回調査概要

第 1 回調査に先立ちロジックモデル及び KPI を設定している。今回調査では、その一部各項目について調査を行った。

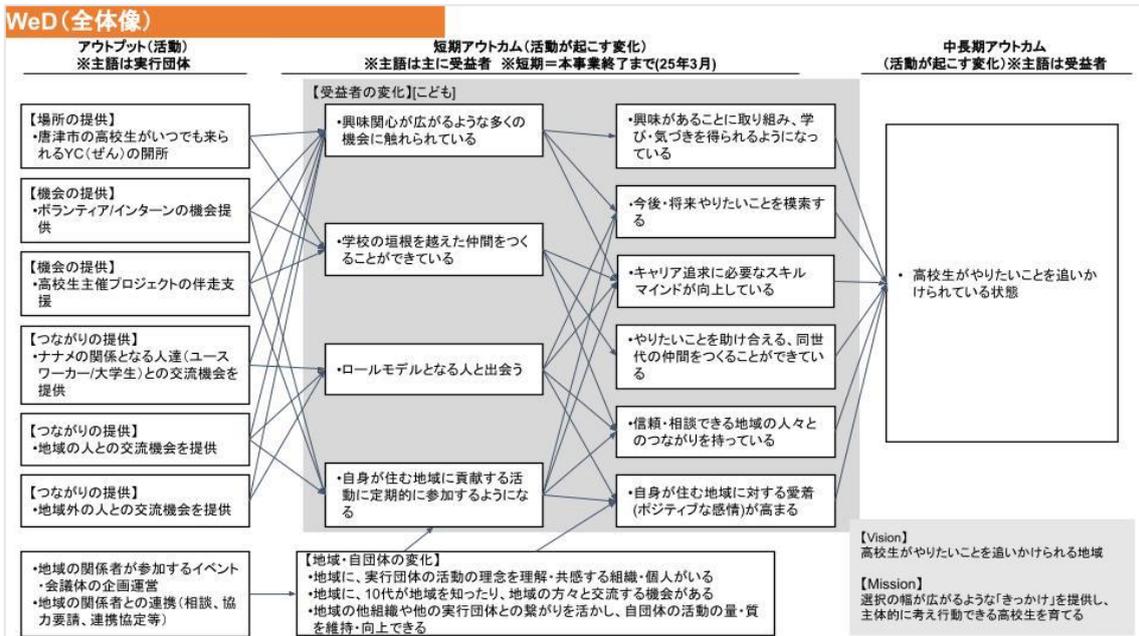


図 1 WeD ロジックモデル

WeD(短期・中長期アウトカムKPI)			
アウトプット(活動) ※主語は実行団体	KPI測定方法	目標値	備考
・興味関心が広がるような多くの機会に触れられている	2.1. 新しい興味関心に出会えた高校生の割合	2.1. 80%以上	
・学校の垣根を越えた仲間をつくることができる	2.2. WeDの活動を通して新たに知り合った友人と呼べる高校生の数	2.2. 平均5名	
・ロールモデルとなる人と出会う	2.3. WeDの活動を通して新たに知り合った憧れを抱ける社会人・大学生がいるか	2.3. 「いる」の回答80%	
・自身が住む地域に貢献する活動に定期的に参加できるようになる	2.4. 地域活動への参加頻度(自主PJ含む) 2.5. 参加頻度の増減	2.4. 「全くない」「年1回」が10%以下 2.5. 「増加」が90%以上	
【地域・自団体の変化】 ・地域に、実行団体の活動の理念を理解・共感する組織・個人がいる ・地域に、10代が地域を知ったり、地域の方々と交流する機会がある ・地域の他組織や他の実行団体との繋がりを活かし、自団体の活動の量・質を維持・向上できる	1.12. 共催イベントの数 1.13. 関係組織の数	1.12. 5回 1.13. 15団体	
・高校生がやりたいことを追いかけられている状態			

図2 WeD 短期・中長期アウトカム KPI①

WeD(短期・中長期アウトカムKPI)			
アウトプット(活動) ※主語は実行団体	KPI測定方法	目標値	備考
・興味があることに取り組み、学び・気づきを得られるようになっている	2.6. 興味があることに取り組みることができた高校生の割合 2.7. 活動の中で学び・気づきを得られた高校生の割合	2.6. 50%以上 2.7. 80%以上	2.7. 2.6で「はい」と答えた生徒対象
・今後・将来やりたいことを模索する	2.8. 将来やってみたいことがある高校生の割合	2.8. 80%以上	
・キャリア追求に必要なスキルマインドが向上している	2.9. 汎用的スキルを問う質問紙の平均点	2.9. 5件法で0.5pt向上	
・やりたいことを助け合える、同世代の仲間をつくることができる	2.2. WeDの活動を通して新たに知り合った友人と呼べる高校生の数	2.2. 平均5名	
・信頼・相談できる地域の人々とのつながりを持っている	2.3. WeDの活動を通して新たに知り合った憧れを抱ける社会人・大学生がいるか	2.3. 「いる」の回答80%	
・自身が住む地域に対する愛着(ポジティブな感情)が高まる	2.10. 地域愛を問う質問紙の平均点	2.10. 5件法で0.5pt向上	

図3 WeD 短期・中長期アウトカム KPI②

第1回調査の期間・方法等は以下の通りである。

- 対象：WeDの活動に参加または居場所を利用している高校生
- 期間：2022/11/22～2022/12/09
- 方法：自由記述回答を含むアンケート調査
- 回答数：30

調査結果

調査を行った 10 項目中 5 項目が達成と判断される結果となった。(2.1・2.2・2.3・2.6・2.7) 特に、2.1「新しい興味・関心に出会えた高校生の割合」や 2.6「興味があることに取り組むことができた高校生の割合」は目標値を大きく上回っている。

一方で、「参加頻度」「参加頻度の増減」「将来やってみたいことがあるか」を問う項目については目標値を下回っており、今後の改善が期待される点である。

*2.9「汎用的スキルを問う質問紙の平均点」及び 2.10「地域愛を問う質問紙の平均点」については変化を測定する項目のため、継続的な調査が必要である。

No.	KPI項目	目標値	第1回調査測定値	達成
2.1	新しい興味関心に出会えた高校生の割合	80%以上	100.0%	○
2.2	WeDの活動を通して新たに知り合った友人と呼べる高校生 の数	平均5名	平均6.1名	○
2.3	WeDの活動を通して新たに知り合った憧れを抱ける社会 人・大学生がいるか	「いる」の回答80%	90.0%	○
2.4	地域活動への参加頻度(自主PJ含む)	「全くない」「年1回」 が10%以下	26.7%	
2.5	参加頻度の増減	「増加」が90%以上	83.3%	
2.6	興味があることに取り組むことができた高校生の割合	50%以上	96.7%	○
2.7	活動の中で学び・気づきを得られた高校生の割合	80%以上	96.7%	○
2.8	将来やってみたいことがある高校生の割合	80%以上	46.7%	
2.9	汎用的スキルを問う質問紙の平均点	5件法で0.5pt向上	3.803	※
2.10	地域愛を問う質問紙の平均点	5件法で0.5pt向上	3.837	※

表 調査結果

唐津市元気プロジェクトより

第1回調査では、調査 10 項目中 5 項目が既に達成、または良い状況であるという結果になりました。これらの項目については第 2 回以降の調査においても達成となるよう、現在の取り組みの継続が重要となります。一方、今回調査では未達成となった 3 項目については見直しと改善が求められます。特に 2.8「将来やってみたいことがある高校生の割合」については、目標値が「80%以上」であるのに対し、実測値が 46.7%となり、興味関心を見つけたところから「将来」や「キャリア」にどう結び付けていくかが今後の課題です。

2.9・2.10 は質問紙形式で、それぞれ「基礎的・汎用的能力**」「シビックプライド」を問う項目でした。KPI 達成の判断は次回調査時以降となりますが、今回調査の分析でいくつかの注目すべきポイントが見られました。

○ 地域活動への参加がシビックプライドを育む

今回の調査では、地域活動への参加回数が多いほど、シビックプライドを問う質問紙の項目で自己評価が高いという分析結果が得られました。その傾向は「地域愛着」や「忠誠的郷土愛」などの項目でより顕著に見られ、活動への参加で地域について知ることが愛着を持つことにもつながっているようです。また、基礎的・汎用的能力の全体スコア

が高いほどシビックプライドも高くなる傾向も見られました。

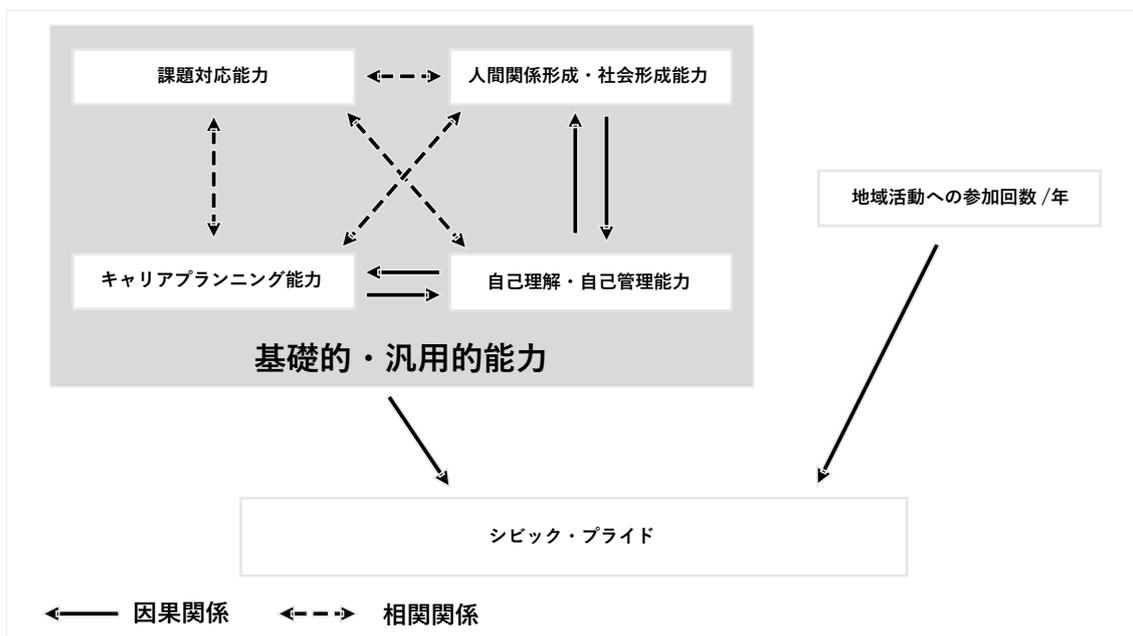


図4 各能力の関係

- 定期的に地域活動に参加しているグループはそうでないグループと比較して「基礎的・汎用的能力**」「シビックプライド」項目の自己評価が高い

年6回以上の「地域活動に定期的に参加している」グループAと、年6回未満の「地域活動に参加していない・参加頻度が低い」グループBで各質問項目の平均を比較したところ、46項目中39項目でグループAがグループBを上回る結果となりました。能力別では「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「キャリアプランニング能力」「シビックプライド」の4能力について問う質問のそれぞれ85%以上でAがBを上回った一方、「課題解決能力」はAがBを上回っている項目とBがAを上回っている項目が半数ずつでした。

これらの傾向は、自分たちの活動の振り返りが、高校生たちに自信を持たせ、また周囲の大人の高校生に対する協力や地域に対して貢献する姿勢を見せていることが大きいと考えられます。

**基礎的・汎用的能力：平成23年の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」で示された、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4能力から構成されるキャリア教育の理論的枠組み